

## 全国初となる「木材トレーサビリティシステム」の開発について

福井県木材組合連合会 事務局長 玉村健二

私は、福井県木材組合連合会事務局長の玉村です。今日の機会を得て、皆様方に福井の木材の良さや使われていくルーツを知っていただくための、県内の木材業者が自ら考案して取組んだ「木材トレーサビリティシステム」を宣伝できますことは、非常に嬉しく思います。

ちなみに、余暇を利用して日曜大工をされる方もよく見かけるようになりました。木材製品や大工道具は、量販店で販売されるようになってきましたが、住宅1軒を建築するには、沢山の木材が必要であり、どうしても住宅建築を専門に扱っている工務店等に頼られるのが一般的です。

地球温暖化防止に貢献する国の政策などから、木材利用ポイント事業や地域型ブランド化事業、あるいは、新築住宅、リフォームなど、国や県、市町などから補助金を受けられる事業があり、施主が事業の申請者になる場合が多く、木材の品質や性能に関心を持たれる方が多くなってきました。

やはり、住宅建築に使われる木材は、スギやヒノキ、ベイマツなど種類はさほど多くはありませんが、健康志向から地産地消の地で育った自然素材の福井の木材を使いたい。あるいは、地震や台風など住宅建築に使用する木材の強度が安心できる部材であるか気になるところです。

このことから、建築設計士からも、住宅建築の柱など主要な部材については、強度や含水率など性能の情報を印字しながら供給できないかと、福井の木材に求められるようになってきました。

福井県木材組合連合会としても、このような時代の流れを迎えて、全国木材組合連合会のアドバイスや国や県のご支援を得ながら、役職員や関係者が一丸となって、原木の産地や木材の強度などの履歴情報を伝達する新たな第三者が認証する「木材トレーサビリティシステム」の導入に向けて取り組んでまいりました。

その取組みの内容は、県内各地から伐採された原木が集まる市場で、原木の産地や寸法等の履歴情報を入力した認証ラベルを原木に貼付します。QRコードやバーコードを搭載しており、手持ちの携帯電話などで読み込んで履歴情報を確認することができます。また、データとし製品管理にも使えます。

認証ラベルが貼付してある原木が、認定製材工場を経て製材品になった柱や横架材等の構造材については、「グレーディングマシン」により強度や含水率を測定して、その構造材の表面に測定結果を印字し、今度は「認証ふくい県産材」として、今までの履歴情報を加えた製品の認証ラベルも貼付して、工務店等の利用者に販売されていきます。

まさに、全国的にこのような取組みが少ない中で、安心して木材を住宅建築に使ってもらえる「新たなシステム」が福井県において誕生し動き出したことは、21世紀の木を伐って使う元気な県産材時代にふさわしい認定市場、認定製材工場としてバージョンアップしたことを、多くの利用される関係者の皆様にも実感してもらえれば、誠に幸であると思っています。

現在、木材トレーサビリティシステムは試行中ですが、市場や森林組合等と連携を更に密に図りながら、福井県の気候で育った木の良さを、地産地消や木材の強度などしっかりとした履歴情報を提供しながら、県民の皆様安心して使ってもらえる取組みをこの「木材トレーサビリティシステム」に託して、頑張っていきたいと願っております。

